

【4-8 定性的システマティックレビュー】

| | | |
|--------------|---|--|
| CQ | 1-1 | Hand-held 超音波検査は高濃度乳房に対する乳がんマンモグラフィ検診の補助的モダリティとして推奨されるか？ |
| P | 日本人、高濃度乳房女性 | |
| I | 検診マンモグラフィ+Hand-held 超音波 | |
| C | 検診マンモグラフィのみ | |
| 臨床的文脈 | 乳がん検診において、マンモグラフィは死亡率減少効果の証明された唯一の検診方法であるが、高濃度乳房に対する診断精度は、高濃度以外の乳房構成の場合と比較して低下することが明らかであり、その対応が模索されている。超音波検査は乳腺濃度に影響されずに腫瘍性病変を検出できるため、マンモグラフィ検診の弱点を補完する検査法として期待されている。 | |

| | |
|--------------------|---|
| O1 | 死亡率減少 |
| 非直接性のまとめ | |
| バイアスリスクのまとめ | |
| 非一貫性その他のまとめ | |
| コメント | Hand-held超音波検査をマンモグラフィ検診に併用した際の死亡率減少効果を検証した研究報告は認められなかった。 |

| | |
|--------------------|---|
| O2 | 感度 |
| 非直接性のまとめ | 超音波検査の介入のある・無しを直接比較したRCTの報告を1件認め、超音波検査によって感度の上昇が確認された。他にコホート研究で感度を検討した報告が1件であった |
| バイアスリスクのまとめ | コホート研究では、高濃度乳房だけを選別して超音波検査を行っており、セレクションバイアスが否定できない。 |
| 非一貫性その他のまとめ | |
| コメント | Hand-held超音波の導入により感度は上昇する |

| | |
|--------------------|---|
| O3 | 要精査率上昇 |
| 非直接性のまとめ | 日本国内からのRCT1件と、欧米からのコホート研究4件が報告されている。 |
| バイアスリスクのまとめ | コホート研究では、マンモグラフィで高濃度と判定した場合に限り超音波を施行しており、介入がなかった場合の要精査率がマスクされている。 |
| 非一貫性その他のまとめ | |
| コメント | 超音波検査の追加された症例では5.4%~6.5%程度の追加要精査が生じる |

| | |
|--------------------|--------------------------|
| O4 | 費用 |
| 非直接性のまとめ | 保険制度の違いにより大きな差を生じる可能性がある |
| バイアスリスクのまとめ | |
| 非一貫性その他のまとめ | |

コメント

コホート研究での費用を算出した報告が2件とシミュレーション分析した報告が1件見られた。死亡率減少効果のエビデンスが無いいため効果の部分が未確定であるが、シミュレーション分析の結果としては、相対的な費用対効果は大きくないと結論づけている。